

MEGURO

— めぐろ区報 —

10 / 15

令和3年(2021年)
No.2120

火から
守る



高齢者を
守る



子どもを
守る



犯罪から
守る

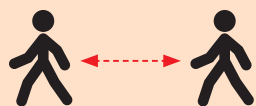


特集

めぐろを守る
ヒーローたち

新型コロナウイルス
感染症対策
リバウンドを
防ごう！

外出
少人数で行動し、混雑している
場所・時間を避ける



帰省・旅行・出張
基本的な感染症防止策
を徹底



飲食店など
21:00以降
出入りしない



路上、公園など
集団飲酒等、感染リスクが
高い行動は控える



情けは人の為ならず

火から守る

目黒区消防団員
眞嶋章夫さん

こんな活動をしています

消防団は、地域に密着した非常勤消防員(特別地方公務員)の団体です。消防署と連携して、消火活動や災害時の救助活動等を行い、平常時は訓練を重ねながら、住民向けに初期消火のやり方などを教えています。

消防訓練
(☎5723-8700、☎5723-8725)



ポンプ車を使っての訓練。短時間でホースをほどいて、放水の態勢を取ります

今は他人事でも、いつか自分事

高齢者を守る

見守りボランティア
中島祥公子さん

こんな活動をしています

見守りを希望する65歳以上の一人暮らしや高齢者のみの世帯のかたに対して、定期的に訪問や家の外から状況確認をすることで、話し相手や安否確認をするボランティア活動です。

福祉総合課地域ケア推進係
(☎5722-9385、☎5722-9062)



担当のかたの自宅を訪問して、世間話をしながら、暮らしぶりに変化がないか確認します

めぐるを守るヒーローたちは 安心・安全を守る

地域のために働きたいと思い、それを実現・実感できています



私は目黒で生まれ、育ちました。地域のために何か役立ちたいと、ずっと思っていました。ちょうど結婚をした頃に、知り合いの分団長から「消防団員にならないか」と誘われました。不安もありましたが、地域のためになるならと決断しました。実際にやってみると、消防や救急など、まさに地域を守る仕事で、自分が望んでいたとおりでした。

消防団員をやって良かったと実感したのは、地元に関わりが増えたことです。防災訓練やお祭りなどの活動を通じて、地元の知り合いがぐっと増えました。一緒に活動する団員たちも、いつもは別の仕事をしていますから、いろいろ話が聞けて楽しいです。

特に思い出に残っているのは、年1回行われる消防団ポンプ操法大会の選手に初めて選ばれたときです。大会に向けて消防ポンプの操作訓練を繰り返し、出場選手を決めます。重いホースを持って50mを全力で走るなど、これがかなりきつい訓練で、課題をクリアして選手に選ばれたときは、本当にうれしかったです。消防団員は選手になって初めて一人前といわれていて、これで晴れて団の一員になったと思えました。

仕事との両立は、やはり難しいことに違いはないのですが、出動要請があって行ける状況であれば、必ず行きます。この地域に暮らす消防団員として当たり前のことですから。



消防団員募集中！詳細は4面へ

子育てと仕事をしながらでも、地域のかたの力になればと思います



以前から、何か人のため、地域のためにできることはないかなと思っていたのですが、子育て中で仕事もしているので、難しいと感じていました。

2年前、地域包括支援センターの職員と知り合い、地域福祉の大変さを知りました。何かお手伝いできることはと尋ねたところ、見守りボランティアがあると教えてもらったのがきっかけで始めました。高齢者の自宅を訪問し、話をしたり、健康状態や暮らしぶりに変わりがないかを見守ったり、何か気になることがあったときは、地域包括支援センターに連絡しています。

登録して担当になったのは、父親と同じ世代で、家事も1人でこなす、近所の優しい一人暮らしのかたでした。活動して特に良かったことは、年齢が違う縦の人間関係が築けたことだと思います。私の子どもを連れて行くこともありますが、とてもかわいがっていただき、今では子どもたちが、今度いつ行くのとせがむほどです。親と離れて暮らしているのも、私も子どもたちも、年齢が違う世代のかたとつながりを持てたのはありがたく、逆に助けられていると感じることもあります。

人との会話や関係を持っていると、認知症の発症が遅れたり、進行を抑止したりする効果があると聞きました。自分がやっている小さなことが、少しでも人の役に立っていると思うことや、近所で互いに思いやる気持ちでつながっている人がいることは、心豊かなことだと思っています。



訪問は2週間に1回のペースで行う

見守りボランティア募集中！詳細は4面へ

子どもを育てるのはい

子どもを守る

主任児童委員
高橋晶子さん

こんな活動をしています

主任児童委員は、児童福祉に関することを専門的に担当し、子ども家庭支援センターや児童相談所・学校・児童館などと連携して、子どもの健全育成活動・子育て支援活動をサポートしています。現在区内では、20人のかたが活躍中です。

子ども家庭支援センター事業係
(☎5722-6836、☎5722-9684)



子育ての相談に耳を傾け、解決の方法を探ります

まずは子どもたちの安全が第一

犯罪から守る

生活安全パトロール
亀山修さん

こんな活動をしています

地域の防犯と子どもの安全を守るため、青色回転灯のパトロールカー(通称、青パト)で24時間365日、区内を巡回しています。警察や生活安全課と毎日連絡・連携を取り、危険箇所の把握など、地域防犯の一役を担っています。

生活安全課
(☎5722-9667、☎5722-9409)



総合庁舎から、青パトに乗って、2人組でパトロールに出掛けます

縁の下の力持ち

子どもたちの未来が、少しでも明るいものでありますように



地元の小学校のPTA副会長を務めたご縁で、住区からの推薦を受けて、19年前に主任児童委員になりました。

主な活動は、子ども家庭支援センターや児童相談所からの依頼を受けて、子どもたちの見守りをする事です。学校・関係機関だけでは対応できない長期休暇中や夜間などの子どもたちの安否確認を、できる範囲で行います。子どもの虐待、いじめ、ひきこもりの解決には、地域で、複数の目で子どもたちを見守ることが必要です。

また、子どもたちの声を聞く工夫として、児童館にふれあいボックス「くろめちゃん」を設置しています。子どもたちから困っていること、楽しかったことなど、何でも書いて投稿してもらった相談箱です。ときには、答えづらい質問やいたずら書きなどもありますが、すべての投書に必ず返事を書いて対応しています。「くろめちゃん」に相談してくれたことを無視していない、ちゃんと見ていますよ、と子どもたちに感じてほしいからです。

ボランティアとしての活動は、守秘義務の徹底や気を遣う任務など大変な面もありますが、一人ひとりの子どもたちがそれぞれに明るい未来をつくってほしいと願い、活動しています。



ヒヨコのキャラクターが目印のふれあいボックス「くろめちゃん」には、子どもたちから寄せられた相談が入っています

子どもたちの安全を第一にして、地域防犯に努めています



区の委託を受けた警備会社で、この仕事に就いて3年目になります。パトロールのルートはその都度変わりますが、朝7時に仕事が始まり、小学生が登校する通学路などで、車から降りて子どもたちの安全確保をします。子どもたちが元気に「おはようございます」とあいさつしてくれるのが、とてもうれしいです。

それが終わると警察署で、防犯重点箇所の相談や指導などを受け、区の生活安全課へ行き、パトロール計画に沿って、車で区内を巡回します。主な警戒先は、小学校、幼稚園、保育園、学童保育クラブ、区立公園など。もしも、不審者や迷惑行為、犯罪などを見つけた場合には、すぐに警察へ通報します。

私たちのパトロールは犯罪の発生を未然に防ぐことを目的としています。そのため、常に人の目があることを知らせる「見せるパトロール」を実施することで、犯罪を抑止するんだという思いで巡回しています。私の任務は午後3時に終了しますが、パトロールは24時間、夜中も行っています。

小さな異変を見つけ連絡すること、それが私の役割です。できることは限られていますが、毎日の安全が守られるように、毎日同じ小さな確認を積み重ねています。



大きく防犯と書かれた緑色の帽子と蛍光色のベストと腕章が必需品。不審者などがないか、目を光らせます